

養殖魚のイメージに関する研究－消費者へのアンケートを基に－

福井県立大学 東村玲子・竹石祐也

1 問題意識

世界の漁獲量の推移を見ると、漁船漁業生産量は既に 1980 年代後半から横ばい傾向となっている一方で、養殖魚生産量は急激に伸びていることは周知の事実である*1。実際に 2030 年には世界の全漁業・養殖業生産量約 1.9 億トンのうち、養殖量が半数を占めることになるとの推計もある*2。世界人口が今後とも増加し、それと共に水産物の需要も高まってく中で、今後とも養殖魚はますます重要になってくると考えられる。

近年でこそ、養殖水産物のメリットとして、計画的な生産が可能、質・量とも安定した生産が可能、系統の選抜により効率的な生産が可能、育った環境についての情報の把握が容易、さらにはトレーサビリティも可能になるといったメリットが知られるようになった。

また、「愛媛県のみかんブリ」、「愛媛県のみかん鯛」「鹿児島県の柚子鰯王（ゆずぶりおう）」など、フルーツを餌に加えて魚特有の臭みを消す「フルーツ魚」も話題になっている。福井県小浜市では、餌に酒粕を加えて臭みを消す「よっぱらいサバ」の生産が数年前から行われている。このように養殖魚も、「ブランド化」を目指す状況になっている。

一方で、2000 年代に入るまでには養殖魚には魚病対策として抗生物質等の薬品が用いられていた。また、フグ養殖の過程でホルマリンが使われていたことも大きな問題となった。

従って今後、重要性が高まる養殖魚について、消費者が持つイメージについてアンケートを基に明らかにし、基礎的知見を得た。上記の抗生物質やホルマリンの問題を踏まえ、年代が高くなるほどイメージが悪くなると仮定し、年代ごとの分析を主に報告する。

アンケートの対象者は計 258 名で、福井県 77、愛知県 72、新潟県 43、大阪府 19、兵庫県 12、群馬県 10 で、この他に千葉県、岐阜県、京都府、長野県、滋賀県、宮城県、三重県、岡山県、静岡県が、5 人未満である。

表 1 アンケート回答者属性

(人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代 ～	不明	合計
男	3	25	18	19	28	21	15		129
女	5	14	13	26	30	15	19		122
計	8	39	31	45	60	37	34	4	258

資料：2018 年のアンケート結果より作成

2 アンケート結果

2-1 天然魚と養殖魚の選好

同じ魚種が売られていた場合に養殖魚と天然魚のどちらを購入するのか、その結果を示したのが表2である。なお、これ以降、養殖魚を選んだ人を「養殖選好」、天然魚を選んだ人を「天然選好」と記載する。

表2 年代ごとの養殖選好と天然選好 人(%)

	養殖選好	天然選好	どちらでも	合計
10代	0 (0)	2 (22.2)	7 (77.8)	9 (100)
20代	1 (2.6)	9 (23.1)	29 (74.4)	39 (100)
30代	4 (12.9)	13 (41.9)	14 (45.2)	31 (100)
40代	2 (4.4)	12 (26.7)	31 (68.9)	45 (100)
50代	5 (8.3)	26 (43.3)	29 (48.3)	60 (100)
60代	1 (2.7)	13 (35.1)	23 (62.2)	37 (100)
70代～	0 (0)	18 (52.9)	16 (47.1)	34 (100)
合計	13 (5.1)	93 (36.5)	149 (58.4)	255 (100)

資料：2018年のアンケート結果より作成

結果的には、養殖選好が13人(5.0%)、天然選好93人(36.5%)、どちらでも良いが149人(58.4%)という結果になった。すなわち、過半数の人が「どちらでも良い」のである。

これを年代ごとに分けて見たのが表2である。こうしてみると、年代が上がるにつれて天然選好の比率が高くなる傾向はあるものの、天然選好が養殖選好を上回ったのは70代以上のみである。しかし、どの年齢層においても養殖選好は少なく、敢えて養殖魚を選ぶ人はほとんどいない。

2-2 薬品イメージ分析

表3に示したのは、養殖魚について「薬品が心配か？」という項目を、「とてもそう思う」「そう思う」「そうかもしれない」「そう思わない」「全くそう思わない」の5段階で評価してもらった結果である。70代以上以外の年代では、おおよそ40%が「そうかもしれない」を選択している。30代と70代以上のみが「そうかもしれない」よりも「そう思わない」の方が高い。但し、70年代以上については、「とてもそう思う」と「そう思う」が合わせて14人(41.2%)と多く、「そう思わない」と同数いる結果となった。

表3 養殖魚の薬品が心配か？

人 (%)

	とてもそう思う	そう思う	そうかもしれない	そう思わない	全く思わない	合計
10代	0 (0.0)	1 (7.7)	3 (33.3)	3 (33.3)	2 (22.2)	9 (100)
20代	3 (7.7)	4 (10.3)	17 (43.6)	12 (30.8)	3 (7.7)	39 (100)
30代	1 (3.2)	7 (22.6)	10 (32.3)	11 (35.5)	1 (3.2)	31 (100)
40代	2 (4.4)	5 (11.1)	20 (44.4)	15 (33.3)	3 (6.7)	45 (100)
50代	4 (6.7)	10 (16.4)	28 (45.9)	17 (27.9)	2 (3.3)	61 (100)
60代	3 (8.1)	7 (18.9)	14 (37.8)	11 (29.7)	1 (2.7)	37 (100)
70代～	4 (11.8)	10 (29.4)	3 (8.8)	14 (41.2)	2 (5.8)	34 (100)
合計	17 (6.6)	44 (17.2)	95 (37.1)	83 (32.4)	14 (5.5)	256 (100)

256人の中には無効3人を含む。

資料：2018年のアンケート結果より作成

同じように5段階評価で養殖魚と天然魚について「安全性は高いと思うか？」という質問をした（有効回答数252）。これについては、良い評価から順に、養殖魚は9.1%，47.2%，47.2%，35.7%，8.7%，0.0%となっている。天然魚は同じく、7.5%，35.7%，36.5%，18.3%0.2%となっている。「とてもそう思う」「そう思う」を足すと、養殖魚で56.3%と過半数を超えており、また天然魚の43.2%をも超えている結果となった。

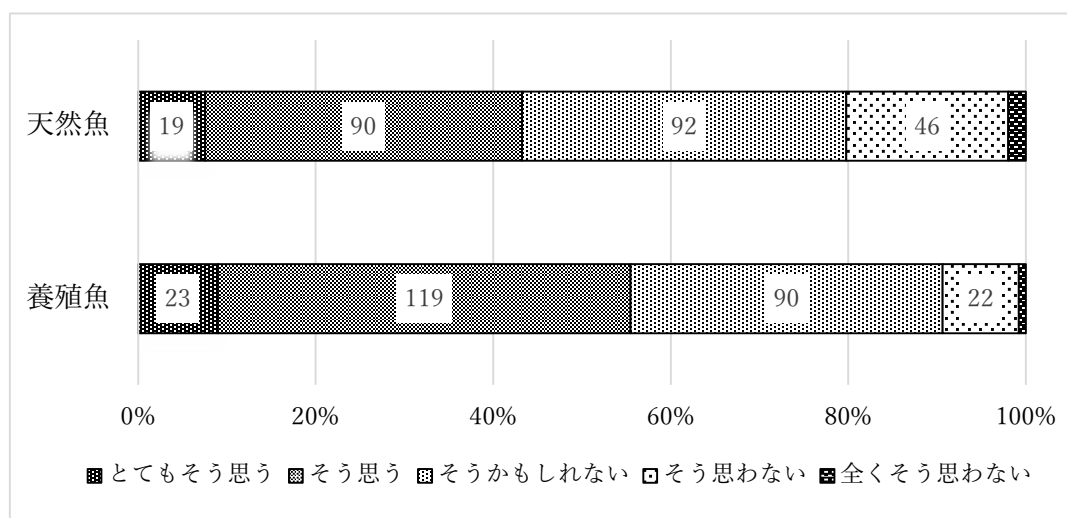


図1 天然魚、養殖魚の安全性は高いと思うか？

2018年のアンケート結果より作成

2-3 味のイメージ分析

養殖魚と天然魚のそれぞれについて、「味が良い」について、同じく「とてもそう思う」から「全くそう思わない」まで5段階で評価してもらった結果が図1である。この結果を見ると、天然魚は良い評価から17.1%，50.0%，25.7%，6.2%，1.1%となり、一方で養殖

魚の方は同じく良い評価から 3.5%、26.0%、52.5%、16.3%、1.1%となった。天然魚は「とてもそう思う」「そう思う」で 67%となったのに対し、養殖魚は 29.5%でしかない。味に関する評価は天然魚の方が高いことが明らかになった。

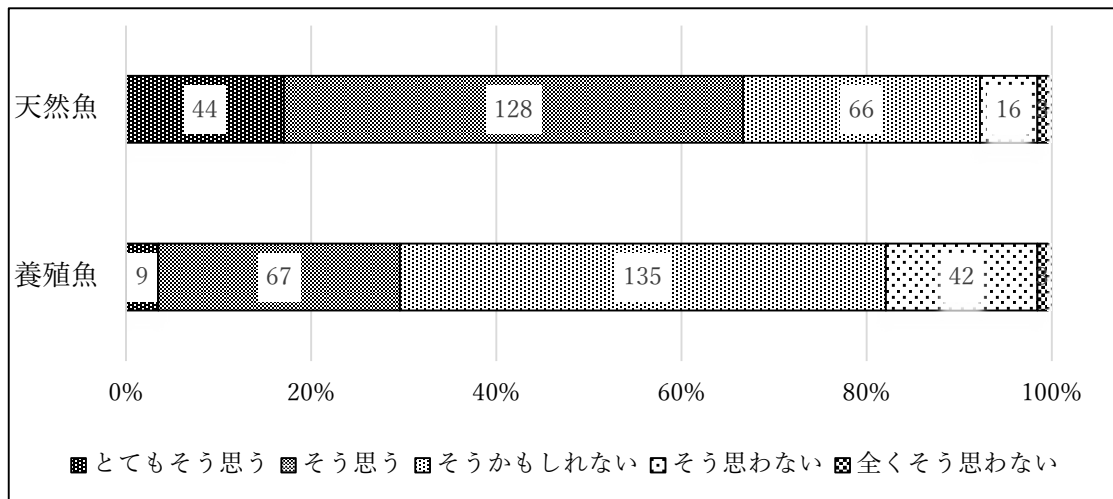


図 2 天然魚，養殖魚の味が良いと思うか？

2018 年のアンケート結果より作成

3 まとめ

既に養殖魚の安全性に関するマイナスイメージは、ほぼなくなっているという結果になった。これは、どの年代にも言えることであり、抗生物質が使われていたことを知識としては知っている世代であっても「現在はそんなことはない」という認識を持つに至ったと結論付けて良いのではないかと考えられる。

しかしながら、一方で味に関する評価は高くはない。それ故に、魚を購入する場合に天然魚、養殖魚のどちらでも構わない消費者は多いものの、積極的に養殖魚を選んでいる訳ではないようである。

魚の養殖を行う技術の開発そのものと、養殖された魚を消費者に魅力あるものとし、販売することは全く別のことである。「美味しい魚」を養殖することの重要性が再度、認識されるべきである。

*1水産庁編『水産白書』令和元年版 p.127, 2019 年

*2 World Bank Report Number 83177-GLB, *FISH TO 2030 Prospects for Fisheries and Aquaculture*, The World Bank, 2013 p.39